



るらる



2026年
6月
No.942

■発行所 ■
日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1
電話 03-3260-8631

■ウェブサイト ■ <https://jelc.or.jp/>
■E-mail ■ jelc@jelc.or.jp

■発行人 ■ 竹田大地 koho@jelc.or.jp
■印刷人 ■ 精文堂印刷株式会社
■定価 ■ 1部 40円 (郵税を含む)
■振替口座 ■ 00190-7-71734

説教「まなざしによる診断」

日本福音ルーテル東京教会・板橋教会牧師 松本義宣

「医者が必要とするのは、丈夫な人ではなく病人である。：わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである。」(マタイ福音書9:12-13)



付き添っての同乗は数回あるが、自分の搬送で救急車に乗ったのは(今のところ)一回だけです。入院の経験もその時だけで、それも日本ではなく、交換牧師としてドイツ滞在中のことでした。夏の休暇で家族と旅行に出て、ルター先生も滞在したコーブルクに泊まった初日の夜、突然原因不明の痛みに襲われ、真夜中に救急車を呼び、病院に運ばれ診察の結果、胆石と分かりその場で手術、一週間の入院、旅行もキャンセル。異国の病室で痛みを経験して初めて、言い古された

言葉ですが、「病気になるて知る健康の有り難さ」を痛感しました。もちろん、もつと深刻な体験と今も健康に不安をお持ちの方には、こんなささいなことには恥ずかしいが、何しろ生まれて初めてづくしだったので、忘れられない体験です。

「医者が必要とするのは、丈夫な人ではなく病人である」。徴税人マタイを弟子に招き、引き続き彼の家で、彼の仲間や罪人と一緒に食事した時、「なぜ、あなたは徴税人や罪人と一緒に食事をするのか」と問われてイエス様

が答えます。「罪人」とは、律法を守らず、守れない人を見なされていた人々です。徴税人も同等にみなされたのは、彼らがローマ帝国の徴税業務を担い、神の民が異国の重税にあえぐ反感に加え、特権で私腹を肥やしもしたからです。憎まれれば憎まれるほど、かえってあくどく振る舞い疎まれる悪循環でした。

「医者が必要とするのは、丈夫な人ではなく病人である。わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである」とした。そのまなざしの新しさは、全てを見通しつつも不思議な目でした。厳しいが、他の誰もが投げ返さずみや憎しみはない。また単なる憐憫でもなく、はつきりとお前は医者が必要とする病人だ、さらに「正しい人ではなく、そういう病人・罪人を招くためにわたしは来た」と語っていた。

「聖マタイの召命」(1599年-1600年) ミケランジェロ・メリージ・ダ・カラヴァッジョ



徴税所に座るマタイは、ただ住民から税を取るだけではなく、交易のために道を行き交う人から通行税を取り立てもした。だろう。課税のため通行人も鋭く視線を投げかけ、通行人も、そんな彼の視線を憎しみとさげすみの目で見返す。そんな視線の交差の中で、しかし、全くこれまで経験のないまなざしが投げかけられた。その新たな視線の持ち主は、通りがかりに、彼を見かけて「言、わたしに従いなさい」と声をかけたただけです。彼は立ち上がりその人に従う。決断に理由はないが、彼を捕らえた視線、彼をして立ち上がらせ、従わせた視線が語ったのが、

「医者が必要とするのは、丈夫な人ではなく病人である。わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである」とした。そのまなざしの新しさは、全てを見通しつつも不思議な目でした。厳しいが、他の誰もが投げ返さずみや憎しみはない。また単なる憐憫でもなく、はつきりとお前は医者が必要とする病人だ、さらに「正しい人ではなく、そういう病人・罪人を招くためにわたしは来た」と語っていた。

「医者が必要とするのは、丈夫な人ではなく病人である。わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである」とした。そのまなざしの新しさは、全てを見通しつつも不思議な目でした。厳しいが、他の誰もが投げ返さずみや憎しみはない。また単なる憐憫でもなく、はつきりとお前は医者が必要とする病人だ、さらに「正しい人ではなく、そういう病人・罪人を招くためにわたしは来た」と語っていた。

「聖マタイの召命」(1599年-1600年) ミケランジェロ・メリージ・ダ・カラヴァッジョ

「聖マタイの召命」(1599年-1600年) ミケランジェロ・メリージ・ダ・カラヴァッジョ

「聖マタイの召命」(1599年-1600年) ミケランジェロ・メリージ・ダ・カラヴァッジョ

⑦「今ですか?」
伊藤早奈



「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」(ルカによる福音書2:14)

「ハロー」えつつ私に? だって全然知らないし、見るからに違う国の人間の私に明るく声をかけて下さいました。

あれは何年前のことだろう。確か数十年前に勉強のため海外に行っていた私は勉強どころか、言葉が通じない人ばかりで孤独になり、いつしか心が下を向いていました。無理やり心を開くためではなく、その人はただ「ハロー」と声をかけて下さっただけなのに、その時から少し心が前を向けたような気がします。何よりも数十年もたった今でも、そのことは私の心に残っています。

「いつもあなたと共にいます」

「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」(ルカによる福音書2:14)

「ハロー」えつつ私に? だって全然知らないし、見るからに違う国の人間の私に明るく声をかけて下さいました。

あれは何年前のことだろう。確か数十年前に勉強のため海外に行っていた私は勉強どころか、言葉が通じない人ばかりで孤独になり、いつしか心が下を向いていました。無理やり心を開くためではなく、その人はただ「ハロー」と声をかけて下さっただけなのに、その時から少し心が前を向けたような気がします。何よりも数十年もたった今でも、そのことは私の心に残っています。

「いつもあなたと共にいます」

第26回ルーテルこどもキャンプ
in 日本福音ルーテル広島教会
2026.8.3【月】-8.5【水】

平和と愛と、ヒロドラマと

主語聖句: 平和を實現する人々は、幸いである。マタイ5:9

メンバー: 小学5年生から中学3年生
参加費: 15,000円
申し込み: キャンパー

申込締切: 6月30日(火)

お問い合わせ先: 中島和志 076-371-4731(大江教会)
主催: 日本福音ルーテル教会TNC子ども部門

詳細は3面に掲載

リレーコラム

「全国の教会・施設から」③6



日本福音ルーテル飯田教会

大平由起子 (日本福音ルーテル飯田教会 女性会書記)
神庭靖子 (日本福音ルーテル飯田教会 副代議員)

長野県南端、東京まで高速バスで4時間の「陸の孤島」に飯田はあります。にもかかわらず、一九〇八年フィンランドの宣教師により伝道所が開設され、多くの宣教師・女性教師が伝道・幼児教育に関わりました。一九二一年地域初の幼稚園創設。一九三年日本人伝道師育成の必要から神学塾

開講一九二四年には現住所に教会と幼稚園が建設されました。飯田教会内外の資料や郷土誌にも当時の様子が記されており、いかに地域に溶け込み慈恵に溢れた宣教活動がなされ、多くの信徒・園児が育てられたかがわかります。

それから70年後の今、幼稚園存続のために会堂は耐震工事を、園は学校法人化を余儀なくされ、教会と園は新たな協力関係の下におのおいの働きをしています。

比奈牧師夫妻のお力で教会学校を月1回の土曜日に変えたことで参加者が増え、園と教会のつながりが強められました。毎日曜日には、音楽好きな子どもと保護者が集い賛美歌を中心に練習し、卒園児保護者のハンドベルグループと共に特別礼拝での賛美をしてくれます。若い世代は教会の光です。



飯田教会外観

百十年の間にはその時々が困難がありました。が、神様は「陸の孤島」の教会と幼稚園を今も残していただき、その時々にあふくしい牧師を遣わしてくださっています。神様の「計画とみ心」にかなう歩みが私たちにできるよう、イエス様が常に共にいてくださることに信頼し、謙虚で寛容な心の中に、喜びと感謝をもって祈りつつ共に歩んでまいりたいと思います。

社会福祉法人

レインボーハウス福祉会

松雪慶太郎 (レインボーハウス施設長)

「レインボーハウスのはじまりと歩み」
福祉施設のはじまり

は、時代や地域によってさまざまです。家族や当事者の思いから始まるもの、教員などの支援者の問題意識から生まれるもの、宗教や理念を背景に広がるもの、制度や行政をきっかけに整備されるものなど、その成り立ちには二つではありません。

レインボーハウスは、その中でもご家族の思いから始まった施設です。初代施設長である鶴順子は、当事者の親として、「街の中に、安心して過ごせる場所をつくりたい」という願いを出発点に、この歩みを始めました。

この二つの柱は、現在の運営や利用者への支援にも受け継がれています。そして、「ハイブリッド」という特徴は、成り立ちや理念、支援のあり方だけにとどまりません。自社製品であるお菓子づくりの中にも見ることができ、鶴が「賞味期限が長いのが良い」と考えたことをきっかけに始まったクッキー作りのレシピは、アメリカ人宣教師キヤロル・サック先生から教



レインボーハウスで販売しているお菓子

改 宣 空

小泉基

(日本福音ルーテル札幌 教会牧師・宣教室長)
廣瀬美由紀 (日本福音ルーテル 長崎教会信徒)

小泉 こんにちは。廣瀬さんは国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館の、被爆証言の語り手と

しての活動を続けておられますよね。具体的には、どのような活動なのですか？

廣瀬 高齢化し、亡くなつていられる方も多いため、被爆当事者の証言を受け継いでいくために、証言を家族が継承する家族証言者と、被爆者から体験を聞き取って継承する交流証言者がいるのです。私は交流証言者として二〇一九年から活動し、各地に講話に出かけたりしています。

小泉 廣瀬さんは、この活動とどのような出会いがあったのですか？

廣瀬 二〇二二年に長崎に転居し、初めて長崎の被爆者や核廃絶のために活動している人たちと出会い、自分も何かしたいと思うようになりました。長崎市の平和案内人の資格を取り、原爆資料館や被爆遺構ガイドとして活動しつつ、被爆者の講話を聞くようになり、百人いれば百通りの被爆体験があると実感しました。家族以外の人も参加できる交流証言者の

募集があると知った時には、県外出身の自分ができるところかと悩みましたが、まず一步を踏み出そうと応募し、証言者の山脇佳朗さんと出会ったのです。

小泉 自分の体験ではない出来事を、語り手として語っていく難しさもおありのことと思いませんか？

廣瀬 山脇さんから直接お話を聞き、講話も何度も聞いて体験をしっかりと受けとめようと思いましたが、いざ原稿に取り

かかると迷いが生じ、山脇さんに背中を押されてようやく完成しました。二〇一九年3月の初講話で、山脇さんから聞いていて涙が出たと言葉を聞いてもらい、胸が熱くなりました。山脇さんが二〇二二年9月に逝去されたからは、私が継承しなければと責任を感じていました。

小泉 なにが、廣瀬さんの活動の原動力となつておられるのですか？

廣瀬 山脇さんや他の被爆者の「自分が体験

したことを一度と他の人にしてほしくない」という強い思いです。

小泉 廣瀬さんのキリスト教との出会いと、大切にしている聖句を教えてください。

廣瀬 滑り止めで入った高校がキリスト教主義でした。高校3年生でアメリカに留学しホストファミリーと通った教会がとても雰囲気がよく、帰国後も礼拝に出席するようにになりました。大切にしているのは、「あなたがたは地の塩である」

(マタイによる福音書5:13)です。

小泉 今日はありがとうございました。廣瀬さんの講話を聞かせていただき、機会を、楽しみにしています。



廣瀬美由紀氏撮影

「アメリカの福音派」

問題によせて後編



江口再起
(ルター研究所員)

前回(5月号)、「福音派」という場合には、二つの区別が必要と書いた。
①プロテスタントの総称
②その中でもある傾向を持つ人々のこと
③アメリカの福音派である。①と②については前回記した。さて、今回は③のアメリカの福音派である。

●アメリカの福音派③の意味

アメリカの人口の四分の一を占め、トランプ大統領の支持基盤の一つだと言われている。トランプの言動を考えると、聖書の教えからあまりにも遠いと感じるが、アメリカの福音派の人々はそのトランプを支持しているという。不可解!

もちろん、「アメリカの福音派」といってもいろいろな人がいることだろう。トランプを支持していない人々も大勢いるに違いない。しかし、彼を支持している人も大勢いるのだ(こうした複雑な事情や歴史については、加藤亨之「福音派」終末論に引き裂かれるアメリカ社会(中公新書、2022

る。しかし、それは誤解(後述)。

5年)に詳しい。必読書。さて、ここではアメリカの福音派に関して二点にしばって考えてみたい。「信仰の問題」と「聖書の問題」である。なぜなら、彼らもその一員であるプロテスタントの二つの柱とは、信仰と聖書だからである。「信仰のみ」と「聖書のみ」。

まず「信仰」の問題もともと(アメリカに限らず)福音派②の意味の人々は、回心、再生(ボーナ・ゲイン)、聖化など自分の信仰体験を非常に大切に、強調する。それがアメリカの歴史と風土の中で過度に増幅され、アメリカの福音派が形成されていった。やがて、回心や再生感といった自らの信仰体験が、肥大化する。信仰している私、回心した私、再生した私、救われた私。もちろん自分に自信を持つのはいいが、いささか自信過剰。しかし、ルター的に言えば、人はどこまで行っても「義人にして同時に罪人」なのだ。自信どころか謙遜こそがむしろ必要である。

ともあれ、アメリカの福音派においては、自らの信仰(体験)の強調が、ルターの「信仰のみ」の教えと重なり理解されてい

もあれば(ルコによる福音書1:15)、神の国は今、あなた方のただ中にあると現代的に記されているところもある(ルカによる福音書17:21)。その点、アメリカの福音派の人々の終末の見方は狭く一方的である。

次回「聖書」の問題。前回記したように、もともと福音派②の意味の人々は、聖書の言葉をそのままの発した言葉と考える傾向があるが、アメリカの福音派の場合、その度合いが更に強い。というのは、聖書には実際には多様なこと(ある場合には言葉の上では相反すること)が記されているのだが、その一部のみを取り出し、それを神の発した唯一の言葉として主張する。「進化論」や「中絶」に対する、いささかヒステリックな攻撃などに、その傾向がみられる。あるいは今日、大きな問題となっているのが「終末論」の問題である。聖書にある記述(ダニエル書やヨハネ黙示録)を下敷きになり近い将来、神とサタンの最終決着(ヘルマゲドーン)となるキリストの再臨が起り、信じる者(のみ)が救われる、と考えている。場所はエルサレム。それゆえ常に潜在的に(現代の)イスラエルにシンパシーを持ち続けるのである。しかし、聖書全体は終末について多様な見方をしている。たとえば、「神の国」は終末において実現するのだが、その神の国が近づいていると未来的に記されているところ

もあれば(ルコによる福音書1:15)、神の国は今、あなた方のただ中にあると現代的に記されているところもある(ルカによる福音書17:21)。その点、アメリカの福音派の人々の終末の見方は狭く一方的である。

そこで、ここでまずルターの真意を確認しておこう。ルターは五百年昔、カトリックと対決した時、カトリックの「信仰と善行」に対して「信仰のみ」、また「聖書と伝承」に対して「聖書のみ」と主張したのである。いつどこでも「信仰のみ・聖書のみ」を振り回せばよいというものではない。相手がある時と場合がある。つまり、あくまで相手や文脈を考えて「信仰のみ聖書のみ」は主張されねばならない。

いづれにせよ、総じてアメリカの福音派の人々のすべてではないにせよ、「愛」の欠如が感じられる。「聖書のみ」ということで、聖書の多様な理解や他の書物(考え)を大切にせぬことは、単なる唯我独尊ではないだろうか。「信仰のみ」ということで、信じない人や信ずることのできない人への共感や共生に目を閉ざすならば、それは愛の欠如ではないだろうか。「たとえ、山を動かすほどの完全な信仰を持つていようとも、愛がなければ、無に等しい」(コリントの信徒への手紙13:2)。

では、ルターが「信仰のみ・聖書のみ」と語った真意は、どこにあるのか。これが大事である。まず「信仰のみ」。信仰という言葉をとにかく強調すればいい、ということではない。なぜなら、信仰とはあくまで「神の恵み」を信じていることだからである。つまり、恵みあふての信仰である。人は、自らの信仰によってではなく、あくまで神の恵みによって救われるのである。このように救われるということこそ、神学用語では「信仰義認」という言い方でいうが、事柄に即して正確に言えば「恩寵義認」と言うべきであろう。つまり「信仰のみ」の真意は、実は「恵みのみ」なのである。なおここで蛇足かもしれぬが、「言、恵みのみ」と

いつても、何でもありがたい、ありがたいということではない。正直に言えば、人生は挫折と苦難と悲しみの連続である。だがそれでも、そうした人生そのものを支える土台(力)、それが「恵み」である。

次に「聖書のみ」。上述のように、聖書は多様な言葉内容に満ちている。聖書の豊かさである。それゆえ、聖書(の一部)の言葉をそのまま神の教えとするのではなく、その言葉の真意、つまりその言葉の深い「意味」をとらえな

ければならない。どういうことか。聖書が多様な言葉内容を含んでいるということは、私たち読む者に多様な読み方ができるということでもある。つまり、多様な読み方の可能性があるということだ。しかし、ただ多様な読み方だけなら、それはバラバラで自分勝手な読み方ともなる。しかし、聖書が一冊の書物としてまとまっているということは、その多様な言葉・内容の中に中心があるということ

でもある。まとめて言えば、多様な読み方の可能性があるが、そこにまた中心もあるということである。哲学者柄谷行人氏の言い方を借りるなら、「可能性の中心」が大切なのである。つまり、聖書はその記述をただそのまま受け取るのではなく、そこに深い意味(可能性の中心)を見いだしていくことが大事なのである。これがルターが「聖書のみ」と語った真意である。

次に「聖書のみ」。上述のように、聖書は多様な言葉内容に満ちている。聖書の豊かさである。それゆえ、聖書(の一部)の言葉をそのまま神の教えとするのではなく、その言葉の真意、つまりその言葉の深い「意味」をとらえな

では、ルターが「信仰のみ・聖書のみ」と語った真意は、どこにあるのか。これが大事である。まず「信仰のみ」。信仰という言葉をとにかく強調すればいい、ということではない。なぜなら、信仰とはあくまで「神の恵み」を信じていることだからである。つまり、恵みあふての信仰である。人は、自らの信仰によってではなく、あくまで神の恵みによって救われるのである。このように救われるということこそ、神学用語では「信仰義認」という言い方でいうが、事柄に即して正確に言えば「恩寵義認」と言うべきであろう。つまり「信仰のみ」の真意は、実は「恵みのみ」なのである。なおここで蛇足かもしれぬが、「言、恵みのみ」と

「ルーテルこどもキャンプ」開催のお知らせ

中島和喜
日本福音ルーテル
大江教会会牧師
TNG委員会(とも)部長
TNG委員会(とも)部
門では、8月3日(月)〜5日(水)、日本福音ルーテル広島教会を会場に「第26回ルーテルこどもキャンプ」を開催します。主題聖句は「平和を実現する人々は、幸いである」(マタイによる福音書5:9)、「テーマは「平和と愛」と、「ヒロシマ」です。小学生から中学3年生までが参加できます。8月の広島で、聖書を通して平和について学び、神さまの平和に満たされ

て、今度は自分たちが平和をつくる者となってい、そんな思いを深めたいと思います。2年前に広島で開催されたこどもキャンプとはまた違ったことを行いますので、一度来たことがある方もぜひまた参加してください。全国の教会の仲間と共に語り合う機会は、きっと楽しく豊かなものとなると思います。これまで参加したことのある方にとつては再会の時に、初めて参加する方は新しい友達がたくさんできる、そんな良い機会になることでしょう。ぜひ、教会でも呼びかけて下さり、子どもたちを送り出して下さい。



参加申し込みは二次元コードからお願いします。申し込み締め切り:6月30日(火) 参加費:1万5千円 併せてキャンプを支えて下さるスタッフも募っています。スタッフは高校生1年生以上が対象です。二次元コードからお申し込みください。



石居昇夫
ルーテル学院大学学長・
日本ルーテル神学校教授

十年以上にわたって検討されてきたディアコニア事業が、各教区主体のディアコニア運動の展開へと方向転換された一九七〇年の教会総会後の機関紙「あすなろ」七月号には、ディアコニア運動は当初から「固定化した制度や組織を生み出すことではなく、全教会、またひとりびとりの信徒の生活の中に無形のものとなつて溶けこみそれを生かす力となる」ことが願われてきた、と記されました。

「福音を伝え、世に仕える神の民」教職・信徒となる「神の民」育成を重要課題としてさまざまな取り組みを始めます。自立計画は、単に経済的自立を目指すというだけではなく、私たちがどのような教会、信徒になつていくのかという具体的な問いに答えていくものとなることとが求められたのです。一

教会が抱えた課題は単に財政上のことばかりではなく、日本社会の実情の中で、教会のディアコニア専従者を生かす現状にはなかつたということかも知れません。「全信徒祭司性」を掲げるルーテル教会として、教会全体、信徒一人一人の生活に「ディアコニア」を溶け込ませるべきことが、まず必要と理解されたわけですね。

九七〇年代半ばの「あすなろ」誌には「信徒のための聖書学講座」や「信仰の生活」について、あるいは「現代日本社会におけるカウンスリング」について学ぶ記事が連載されています。

われた時代でした。日本ルーテル神学大学は、現実的な財政課題もありましたが、社会福祉の専門職にクリスチャンワーカーを送り出すために、一九七六年神学部神学科の中に「キリスト教社会福祉コース」を設置します。一度は企画されたディアコニア専従者養成の計画では、カリキュラム二覽を整えるところまで神学大学の役割が考えられていました。具体的な働き場を想定したキリスト者の社会福祉専門職養成という形で、ルーテル教会のディアコニアへの使命に込めようとしたといえるでしょう。

「リーダー研修キャンプ」開催のお知らせ

多田哲
日本福音ルーテル合志教会・
水俣教会牧師・T.N.G.
委員会ユース部門長

T.N.G.委員会ユース部門

では、毎年沖繩で「リーダー研修キャンプ」を開催しております。今年も8月24日(月)～27日(木)に開催します。
沖繩の過去、現在、未

「福音を伝え、世に仕える神の民」教職・信徒となる「神の民」育成を重要課題としてさまざまな取り組みを始めます。自立計画は、単に経済的自立を目指すというだけではなく、私たちがどのような教会、信徒になつていくのかという具体的な問いに答えていくものとなることとが求められたのです。一

「福音を伝え、世に仕える神の民」教職・信徒となる「神の民」育成を重要課題としてさまざまな取り組みを始めます。自立計画は、単に経済的自立を目指すというだけではなく、私たちがどのような教会、信徒になつていくのかという具体的な問いに答えていくものとなることとが求められたのです。一

「福音を伝え、世に仕える神の民」教職・信徒となる「神の民」育成を重要課題としてさまざまな取り組みを始めます。自立計画は、単に経済的自立を目指すというだけではなく、私たちがどのような教会、信徒になつていくのかという具体的な問いに答えていくものとなることとが求められたのです。一

ご参加ください。

普段、なかなか会うことができない全国の教会の仲間と共に、聖書について、教会について語り合う機会は、貴重な機会となることと思います。

この機会に教会でも青年たちに呼びかけて下さいますと幸いです。

参加申し込みは二次元コードからお申し込みください。申し込み締め切り：7月12日(日)



第33回春の全国ティーンズキャンプ報告

河田優

日本福音ルーテル日吉教会・
横浜教会牧師、第33回春の全国ティーンズキャンプ部長

3月30日(月)から4月1日(水)にかけて、「第33回春の全国ティーンズキャンプ」が東京・高尾の森わくわくビレッジで開催されました。今年のテーマは「救いって思ったよりリアルかも」です。受難週に行われたキャンプとして、罪の赦しのために十字架まで歩まれたイエスの足跡をたどり、その「リアル」に向き合う3日間となりました。北海道から九州まで40人のティーンズが参加し、スタッフを含めて計70人が集いました。

キャンプは開会礼拝から始まり、その後のアイスブレイクで参加者たちの緊張も徐々にほぐれていきました。グループごとの分かち合いでは、イエスの十字架の出来事を自分の生活や思いと重ね合わせながら、「今の自分と十字架の距離」について語り合う時間が持たれました。

3月30日(月)から4月1日(水)にかけて、「第33回春の全国ティーンズキャンプ」が東京・高尾の森わくわくビレッジで開催されました。今年のテーマは「救いって思ったよりリアルかも」です。受難週に行われたキャンプとして、罪の赦しのために十字架まで歩まれたイエスの足跡をたどり、その「リアル」に向き合う3日間となりました。北海道から九州まで40人のティーンズが参加し、スタッフを含めて計70人が集いました。

「救いって思ったよりリアルかも」です。受難週に行われたキャンプとして、罪の赦しのために十字架まで歩まれたイエスの足跡をたどり、その「リアル」に向き合う3日間となりました。北海道から九州まで40人のティーンズが参加し、スタッフを含めて計70人が集いました。



キャンパー、スタッフの集合写真

「2026年度教会手帳」誤植について
お詫びとお知らせ
いつも教会手帳をご愛用いただき、誠にありがとうございました。誠にありがとうございます。

このたび、2026年度教会手帳におきまして、「10月28日(水)」の聖書日課欄に記載漏れがあることが判明いたしました。左記の通り訂正いたしますとともに、深くお詫び申し上げます。
【訂正内容】
2026年10月28日(水) 箴16:1-20 詩119:41-48 マタ19:16-22